

歌が生まれる

校歌制作レポート 第2回



イラスト：山崎奈緒

梅雨が明けて、本格的な夏がやってきました。真夏の上田の空気感が懐かしく思い出されます。

さて、第1回から更新することなくあっという間に1ヶ月。「おいおい、月2回ペースで更新のはずだったのでは？」とツッコミが入りそうです。

はい、その通り。申し訳ありません。ではその間何をしていたかというと、7月20日の演奏会のための練習と新曲作りにかかりっきりになっていた次第。もちろん、校歌のことを忘れていたわけではなく、別の曲を作りつつ、ずっと考えてはいたのです。どちらも「作曲」なので、無関係というわけにはいかず、頭の中のどこかで、それも思いがけない共通項でつながっていたりするものなので「結びつけて考えるな」というほうが無理なのです。

・・・というわけで、今回は、先日7月20に初演した「星空への前奏曲」を作りながら私が考えていたこと、そして、そのどこが校歌と関係があったのか？ そんなことについてお話ししていこうと思います。

そろそろ本格的に着手、の一步手前にいる。

今のところ、そんな状態です。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。

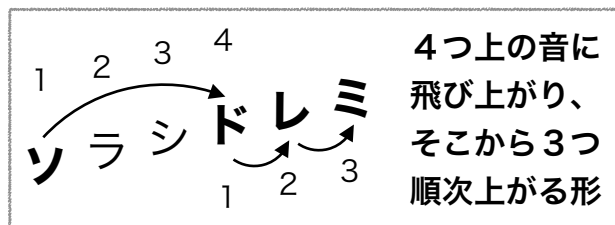
現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 7月22日 レポート

ソドレミ考

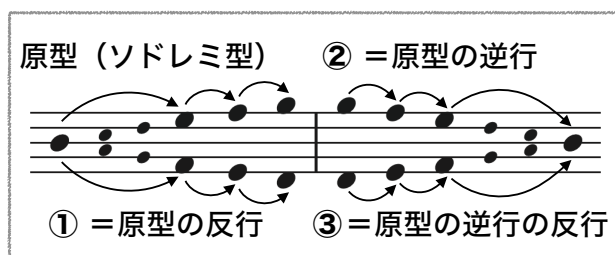
「星空への前奏曲」は、フルートとピアノのための小品。宮沢賢治の「星めぐりの歌」を素材に、しかし、その旋律をそれとはわからないように変形・分解して組み込み、最後に原型を現すという仕掛けでした。

「星めぐりの歌」は **ソドレミ** 型の音列で始まりますが、この始まり方の曲は（何の音か、ではなく形の問題です）もの凄く多い。日本の歌なら「茶摘み」



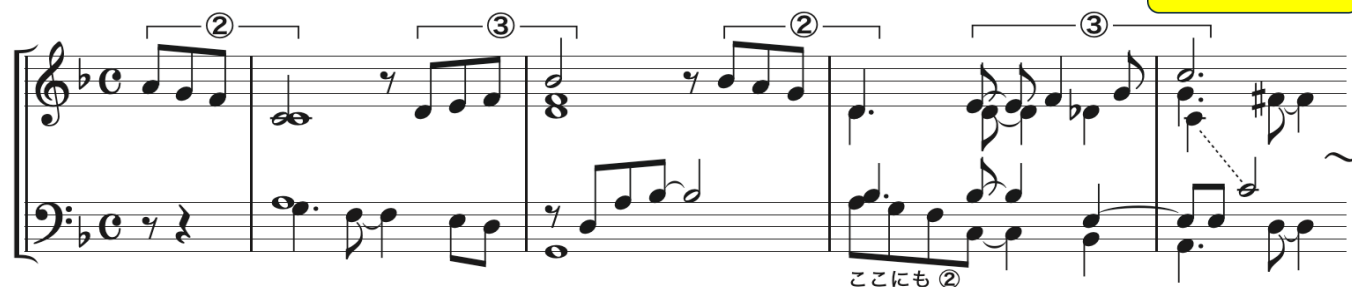
「五木の子守唄」「赤とんぼ」「千の風になって」etc. クラシックなら「チゴイネルワイゼン」（サラサーテ）「夢の後に」（フォーレ） ピアノ三重奏第1番（ブラームス） アルペジヨーネソナタ第2楽章（シューベルト） etc. アメリカンポップスの「You are my sunshine」もそうだし、あ、ゲーム音楽「ドラゴンクエスト」のテーマもそうだ。とにかく多すぎて枚挙にいとまがない。たくさんあって、しかも広く親しまれているものが多いということは、この音列が、何か人を惹きつける要素を含んでいるからでしょう。

その要素の分析はさておき、私はこの音列をひっくり返してみました。それはどんな作曲家もやる常套手段で、例えば右のような方法で行います。このうち②



の逆行形を「星空への前奏曲」に使ったのですが、書きながら「これは校歌に使えるかも？」と考えていました。**ソドレミ** 型はいくらでもあるけれど、逆行の **ミレドソ** 型（②のこと）はそれほど多くない。即座に思いつくのはブラームスの第1交響曲の終結近くに現れるホルンの旋律と「鉄腕アトム」の ♪10万馬力だ〜 の部分ぐらいです。で、試しにその反行型 ③ を設定し、②と③を交互に1音ずつ高くなるように並べてみると下のような旋律が出来て、それには公募に多数重複して寄せられていたいくつかの言葉が、うまく乗るように思えました。

楽譜をクリックして聴く



未来（を・の・へ）／風（は・に）／夢（みる・を・に）／緑（は・の）などなど、順不同で色々な組み合わせで口ずさんでみてください。この旋律、もしかすると使うかもしれません。ではまた次回。